

高等学校

平成 7 年 度

# 教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

## 目 次

I	主題設定の理由 .....	1
II	研究の経過 .....	1
III	研究内容 .....	2
1	生徒の学習意欲を高める指導 .....	2
2	家庭経済と消費 .....	3
(1)	研究のねらい .....	3
(2)	指導計画 .....	4
(3)	実態調査 .....	5
(4)	指導事例1 ポケットベルの契約を通して契約について理解する .....	8
(5)	指導展開例 .....	12
2	保 育 .....	14
(1)	研究のねらい .....	14
(2)	指導計画 .....	14
(3)	指導事例2 妊娠模擬体験装置を利用して妊娠の状態を理解する .....	16
(4)	指導事例3 保育園見学を通して乳幼児の生活を理解する .....	22
IV	研究のまとめ .....	24

平成7年度

### 教 育 研 究 員 名 簿

学 校 名	氏 名
都立文京高等学校	渡 辺 泰 子
都立城北高等学校	郡 司 律 子
都立牛込商業高等学校	土 谷 容 子
都立足立東高等学校	金 澤 正 美
都立足立新田高等学校	磯 辺 真 澄
都立秋留台高等学校	藤 野 圭 紀

担当 指導部高等学校教育指導課指導主事 清水 ゆかり

## 研究主題 生徒の学習意欲を高め、進んで実践する態度を育成する家庭科の指導

### I 主題設定の理由

社会の急激な変化は、生徒を取り巻く家族や家庭環境に対しても大きな影響を与えている。経済の発展により、私たちの生活は便利で物質的に豊かなものとなったが、反面、子どもたちの生活体験はますます乏しいものとなり、日常生活に対して無関心で、自己の生活を積極的に向上させようとする意欲や態度があまりみられなくなっている。その結果、家庭科の授業で学習したことを自分自身のこととして受け止め、日常生活の中で生かしていこうとする姿勢が見られなくなっている。

高校家庭科では、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の意義を理解させるとともに、家庭生活及び関連する職業に必要な能力と主体的、実践的な態度を育てることを目標としている。将来、生徒一人一人が主体的に新しい家庭を創造していくためには、単に知識や技術の習得に終わることなく、生活に対して一層の関心を持ち、獲得した知識や技術を活用し、主体的に生活課題に対応していくことのできる能力を育成することが求められている。したがって、家庭科においては体験的学習を通して、家庭生活や地域において実践する態度を養うことができるよう、授業時数の10分の5以上を実験・実習に配当することが定められている。

しかし、生徒が主体的に学習に取り組むようにするためには、ただ体験的・実践的な活動を多く取り入れればよいわけではない。生徒の実態を十分に把握し、生徒の学習に対する興味・関心を引き出し、学ぶ喜びを体得することができるような題材、教材を考えていく必要がある。生徒にとって、授業が「楽しく」「分かる」ものとするためには、教師主導ではなく一人一人の生徒が様々な場面で主役になれるよう授業形態を変えていく必要がある。

そこで、本年度の教育研究員は「生徒の学習意欲を高め、進んで実践する態度を育成する家庭科の指導」を主題に設定し、研究を進めた。

### II 研究の経過

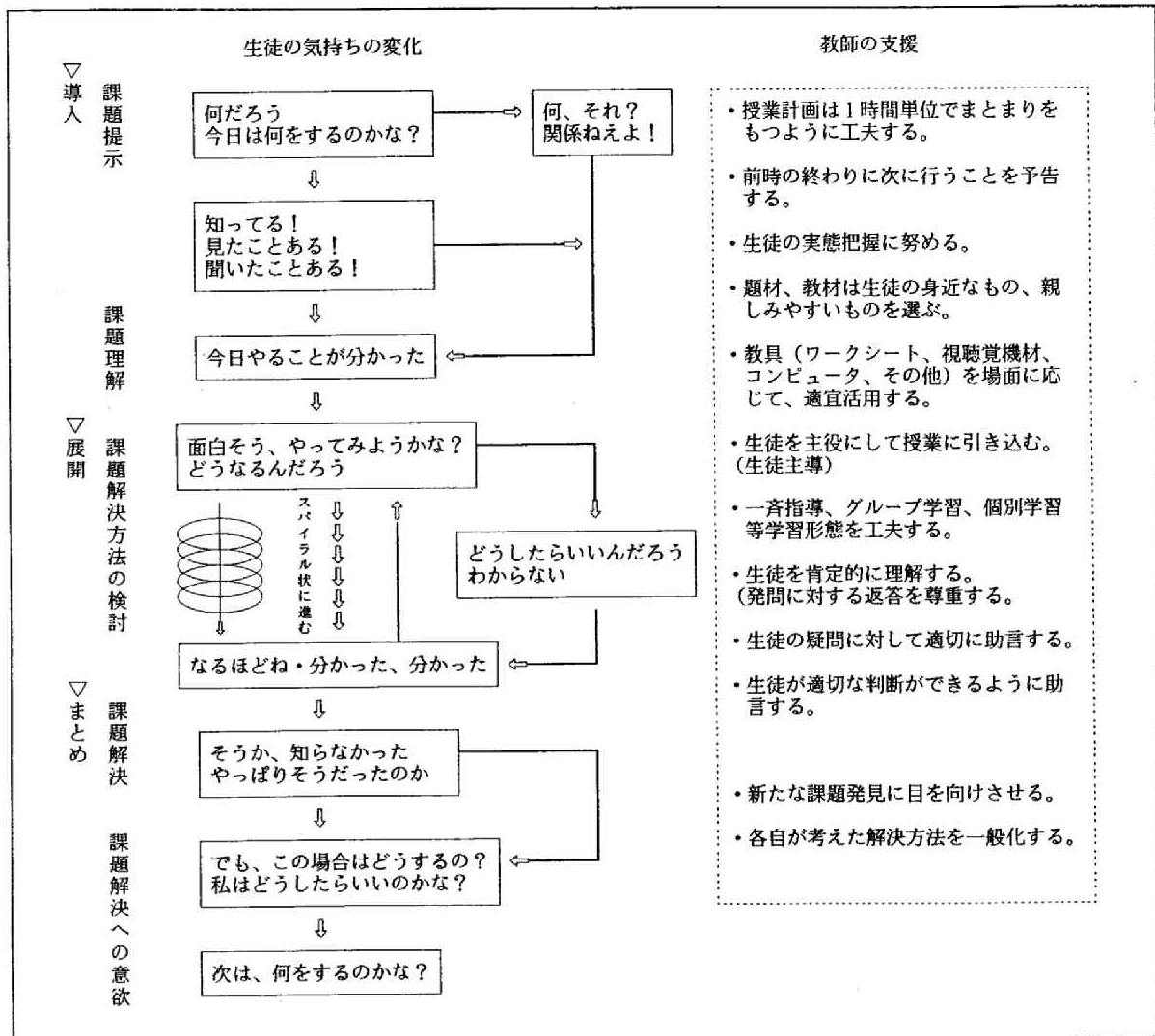
- 5月 各校の諸問題を整理し、研究主題設定に向けて協議
- 6月 研究計画及び研究内容・方法の協議
- 7月 御岳合宿の準備・研究内容の協議
- 8月 御岳合宿 授業改善の視点から2グループに分かれて協議
- 9月 研究授業（文京、足立東）
- 10月 授業指導案の検討  
研究授業（秋留台）
- 11月 研究報告書原稿の読み合わせ  
研究授業（足立新田、文京、城北）
- 12月 最終原稿の読み合わせ
- 1月 研究発表会の準備
- 2月 研究発表会

### III 研究内容

#### 1 生徒の学習意欲を高める指導

生徒一人一人が家庭生活や地域の生活に興味・関心をもち、将来にわたりこれらを充実向上させていこうとする能力を育てるとともに、その能力を家庭及び社会で実際に生かして働こうとする実践的態度を育成することは家庭科の学習目標であり、これからの時代を生きるすべての高校生に必要なことである。このような能力や態度を育成するには、体験学習を通して、積極的な実践力を育成するとともに、学習の過程において学ぶことの喜びを実感し、成就感を味わうことができるようにすることが大切であり、その結果、生徒の学習意欲を高めることができると考えられる。生徒は、自分の考えに基づいて主体的に学習を進めるとき、学習に意欲的に取り組むものである。したがって、家庭科の授業が興味をもて、楽しく、分かる授業であれば、生徒の学習意欲も高まり、自ら進んで実践する態度の育成につながると考えた。

そこで生徒が興味をもて、楽しく、分かる家庭科の授業を行うための視点として、(1)生徒の実態把握、(2)題材の選定、(3)教材・教具の工夫の3つを柱として、それぞれの関連性を検討しながら研究を進めた。



### (1) 生徒の実態把握

中学校の技術・家庭科では、すべての生徒に履修させる領域と選択領域が設けられていることから、中学校における学習経験が異なることに留意する必要がある。また、生徒の生活する家庭及び地域の環境とともに、課程や学科の特色等を考慮し、生徒の特性等に応じて適切な工夫を加えて効果的な指導をする必要がある。

### (2) 題材の選定

題材の選定に当たっては、家庭科における教科の系統性を考慮するとともに、他教科との関連性も考慮する必要がある。また、現在及び将来の生活において必要とされる内容であり、生徒の興味・関心等の違いに応じることが必要である。

### (3) 教材・教具の工夫

生徒の特性などに応じた教材・教具は、学習への興味・関心や学習効果を高めるために有効である。標本や資料、ワークシートなどは、生徒の個別学習を援助したり、方向付けしたりする教材・教具である。それらを活用して生徒が主体的に学習できるよう工夫することが大切である。

## 2 家庭経済と消費

### (1) 研究のねらい

「家族と家庭生活」及び「家庭経済と消費」の2領域は、「家庭一般」「生活技術」「生活一般」の3科目共通の内容である。「家族と家庭生活」については平成6年度の教育研究員が取り上げているので、今年度は「家庭経済と消費」領域で、生徒が主体的に学習できる指導法について研究することにした。

指導計画を作成するに当たっては、生徒の実態を踏まえ、それぞれの項目が関連をもつように配列を工夫した。まず、“消費生活と消費者”について学習し、それから“労働”“家庭経済”“生活設計”の順に学習するようにした。

“消費生活と消費者”では、生徒が意欲的に学習できる教材を決定するに当たり、生徒が今、欲しいと考えている商品についてアンケート調査を実施したところ、ポケットベルと答えた生徒が最も多かった。そこで、生活指導上の問題にも留意しつつ、生徒の学習意欲を高めることを目的として、ポケットベルを教材化することを試みた。

ポケットベルは、平成7年3月からレンタルのみでなく買い取り制も導入されたことにより、家電量販店やコンビニエンスストアでの購入も可能となった。さらに、本体価格をはじめ基本使用料も安くなり、高校生のこづかいでも十分に支払えることもあって、契約件数が急増し、高校生の三種の神器の一つになった。また、新聞や雑誌、CMにも取り上げられ、新しい家族のコミュニケーション手段としても宣伝されている。しかし、高校生がポケットベルの契約をするには、親権者の同意が必要等の条件がある。そこで、ポケットベルを通して長期間のサービスを受けるための契約について考えさせるとともに、販売方法や支払い方法の種類が多様化している現状を理解させ、自ら情報を選択・決定する能力を育成することをねらいとして、指導内容を検討した。

また、平成7年7月よりPL法がスタートしたことにより、消費者の権利や責任等も変わってきている。そこで、こうした生活情報を意識していくことの大切さを認識させ、多

くの情報の中から必要なものを選択し、合理的な行動をとるための内容についても指導計画の中に入れた。

次に、“労働”“家庭経済”の学習では、職業選択の情報の1つである求人票を教材として取り上げることにした。求人票をもとに、生活時間が職業労働の形態によって変化していることを理解させ、家族の生活時間について考えさせることもできるし、賃金や福利厚生などについて取り上げることもできる。また、家庭の経済と国民経済の関わりについても学習することが可能である。進路指導については、各校とも計画的に実施しているが、主体的な進路選択能力を育てるためには、各教科の中での取り組みも必要である。家庭科という教科の中で、求人票を教材として活用することにより、早い時期から進路に対して主体的に取り組む態度を育成することもできる。そこで、求人票を教材として活用できる指導内容を考えてみた。

(2) 指導計画 (17時間)

指導項目	時間	指導内容	備考
1 消費生活と消費者 (1)はじめに	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>この単元を学習するに当たり、金銭に関わる意識調査と物品(ポケットベル)購入に関するアンケート調査を行い、生徒に動機付けを行う。なお、両調査結果は集計し、関連する授業の中で活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査</li> <li>アンケート調査</li> </ul>
(2)購入のあり方 ①販売方法の種類と特徴	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものを購入する時の行動パターンについて考えさせ、買う物によって店を選んでいることに気付かせる。</li> <li>店舗販売と無店舗販売について、その特徴等について理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板掲示用カード</li> </ul>
②支払い方法の種類と特徴	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>現金以外の支払方法について考えさせる。</li> <li>三者間クレジット契約を取り上げ、クレジットや契約の意味について理解させる。</li> <li>VTRにより、クレジットに関する理解を深め、次時の契約に関する意識を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種実物カード、パンフレット</li> <li>VTR：一平君のクレジット体験</li> </ul>
③契約について	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケットベルを教材として、長期間のサービスを受ける時の契約について理解させる。</li> <li>契約約款を読むことの重要性について理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート集計結果</li> <li>黒板掲示用カード</li> </ul>
2 消費者問題と消費者の権利 (1)クーリングオフについて	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の権利について理解させ、その一つであるクーリングオフの内容と利用の仕方について理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポケットベル契約書</li> <li>消費者センター資料</li> </ul>

(2)消費者問題について	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査結果から、高校生は路上で声をかけられる割合が多いことを認識させ、巧妙な手口による悪徳商法の被害にあいやすいことに気付かせる。</li> <li>悪徳商法の手口と、その対処方法について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査集計結果</li> <li>VTR：若者は狙われている</li> <li>消費者センター</li> </ul>
3 生活情報の活用	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品を購入をする時には正しい商品情報が必要であることに気付かせる。</li> <li>商品に書かれている「表示」は大切な商品情報であることを理解させ、今年施行されたPL法によってその表示のもつ意味の重要性について認識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事</li> </ul>
4 私たちの暮らしと消費	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売方法や支払い方法が多様化するにつれ、消費者の購買行動も多様化し、それに伴って商品の流通経路も複雑になっていることを理解させる。</li> <li>「価格破壊」「内外価格差」等から価格・物価について触れ、これらの問題については国内だけでなく国際的視点に立って考えることの必要性について理解させる。</li> </ul>	
5 労働 (1)職業労働 (2)生活時間と家事労働	2 1	<p>※ここからは、教材として高卒用求人票を使って授業の展開を行う。詳しくは「指導展開例」を参照。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高卒用求人票</li> <li>法律に関する資料</li> </ul>
6 家庭の経済 (1)私たちの暮らしと経済活動	2		
(2)家庭経済のしくみと経済設計	2		

### (3) 実態調査

ア ねらい ポケットベルとこづかいに関する生徒の意識や実態を調査し、家庭経済領域・消費生活と消費者の指導を行うための資料とする。

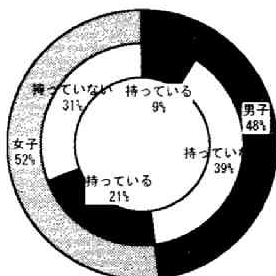
イ 対象 都立高等学校6校

ウ 回答数 2800名(男1346、女1454)

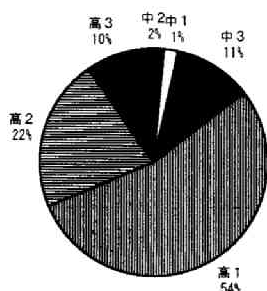
エ 調査時期 平成7年10月

## オ 調査内容と分析

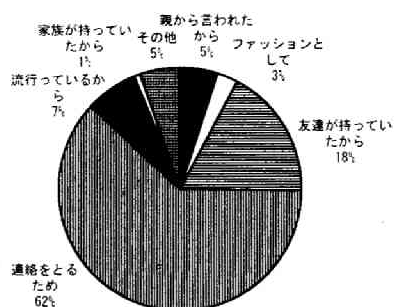
(ア) ポケットベルの所持率(全体)



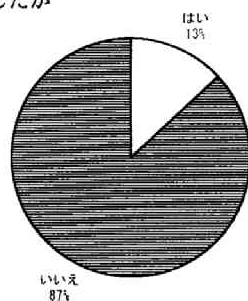
(イ) ポケットベルを持った時期



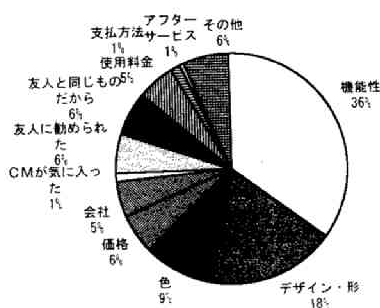
(ウ) ポケットベルを持つと思った理由



(エ) ポケットベルを持つことに親の反対はありましたか



(オ) 商品決定の理由



(ア) ポケットベルの所持率

ポケットベルの普及度を知る手がかりとして、所持率の調査を行った。その結果、ポケットベルを持っている生徒が全体の3割以上いた。男女別にみると男子は19%、女子は40%であり、女子の所持率が高いことが分かる。

また、学年別で比較すると第1学年30%、第2学年26%、第3学年38%の生徒が持っている。第2学年で若干所持率が低下するが、第3学年では全体の約4割の生徒がポケットベルを所持している。

(イ) ポケットベルを持った時期

高1で初めてポケットベルを所持した生徒が半分以上を占めている。高2・高3を含めるとポケットベルを持っている生徒の86%が、高校入学後契約したことが分かる。高校生の三種の神器は「名刺」、「電子手帳」そして「ポケットベル」といわれている。一部の高校生にとってポケットベルは高校生活の必需品となっているようだ。

また、中学生の時から持っている生徒が所持者の14%おり、少数であるが小学生で契約している生徒もいることからポケットベルの利用者が低年齢化していることが分かる。

(ウ) ポケットベルを持つと思った理由

「連絡をとるため」が約6割、「友達が持っていたから」という理由が約2割を占めていることから、友人間の連絡のため持つ生徒が多いと思われる。親からいわれてポケットベルを持つ生徒も5%いる。親が子に連絡をとるためにポケットベルを持たせていることが分かる。

(エ) 保護者の意見

親の反対があった者が13%いた。「使用料金の支払いが心配である」、「非行の原因になる」がその理由である。親が持たせる場合もあれば反対する場合もあることが分かる。

(オ) 商品決定の理由

機能により選んだ生徒が36%いる。また、デザ



イン・形、色から決定した生徒が、約1/4いる。外観の印象を重視していることが分かる。「友人に勧められた」、「友人と同じものだから」は合わせて1割以上である。商品を選択する上で広告からの情報よりも友人からの口コミの影響が大きい。

(カ) 連絡を入れてくる相手

友人からが54%と半分以上を占めている。2位は親からで24%であり、3位の兄弟からを含めると家族と連絡をとるためにポケットベルを使用している生徒が4割近くいる。

(キ) アフターサービス・利用中止

ポケットベルを所持している生徒の約1/4がポケットベルが故障・破損したときや利用を中止したいときの手続き方法を知らない。契約申込書に記載してある事項を確認しなかったり、内容を理解していなかったりする者もいることが分かる。

(ク) 支払い

支払いを延滞している生徒が約1/4いる。延滞金の支払い方法として「親に払ってもらう」、「アルバイトをして払う」が多い。また、サービス停止や通知によって初めて支払いの延滞に気付く者がいる。契約を結ぶことによって料金の支払い義務が生じるが、それを守れない場合は罰則事項があることを理解していないようである。

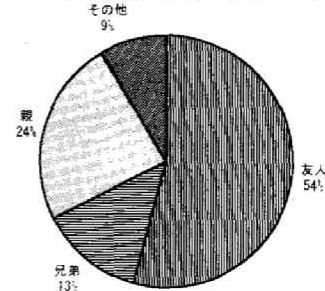
(ケ) ポケットベルの所有希望の有無

現在、ポケットベルを持っていない生徒の30%がポケットベルを所有したいと思っている。理由としては連絡をとるためが一番多く、親や兄弟に勧められている生徒もいる。

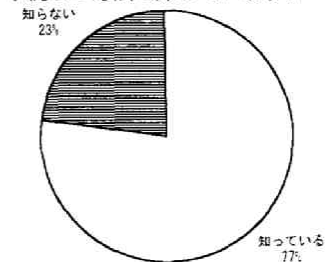
(コ) 1カ月のこづかい

こづかいを貰っている生徒のうち、金額が一万円以下が約80%を占め、3,001~5,000円が一番多い。5万円以上もらっている生徒が8%いる。金額は個人によって差があることが分かる。

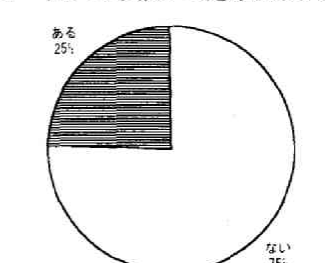
(カ) 連絡を入れてくれる相手



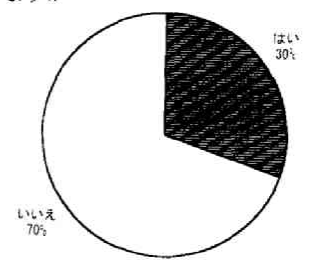
(キ) ポケットベルの利用を中止したいときの手続きの方法を知っていますか



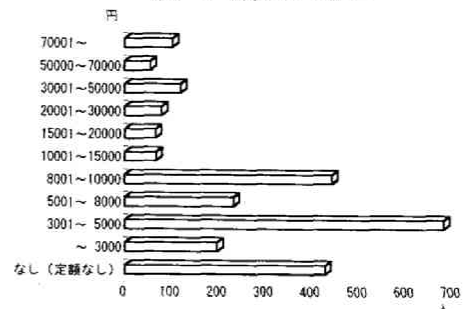
(ク) 今までに支払いの延滞はありますか



(ケ) あなたはポケットベルを持ちたいと思いますか



(コ) 1カ月のこづかい



以上の調査結果から、ポケットベルが高校生に普及しているが、契約に対する理解不足があること等が判明した。そこで「家庭経済・消費生活と消費者」において、ポケットベルを取り上げることにより、契約等の学習に対する関心・意欲を高めようと試みた。

(4) 指導事例1 ポケットベルの契約を通して契約について理解する

ア 題材名 失敗しない契約の仕方

イ 題材設定の理由

輸送方法や情報伝達の発達により販売方法も多様化している。中でも、契約に関わるトラブルが若者（10代から20代）や高齢者層を中心に増加し、大きな社会問題となっている。その理由の一つとして契約内容の理解不足が考えられる。このようなトラブルを防ぐためには、早い時期から消費者としての知識を身に付けることが必要である。そこで、現在、若者の間で流行しているポケットベルを題材として、その申し込み時における契約での確認事項を学習し、契約に対する理解を深めるために本題材を設定した。

ウ 学習目標

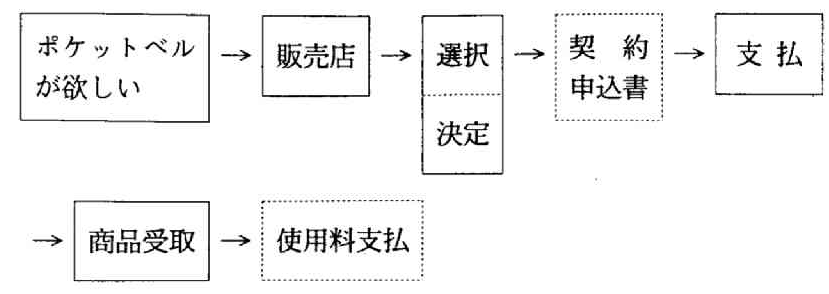
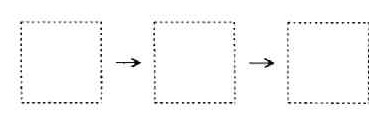
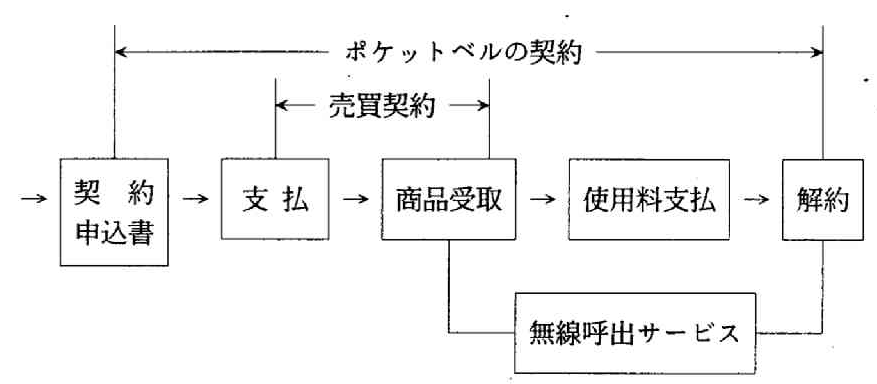
- (ア) 日常生活の中の契約について理解する。
- (イ) 契約手続きの具体的な内容と方法について理解する。

エ 資料及び準備

- (ア) 物品（ポケットベル）購入についてのアンケート調査の実施と集計・分析
- (イ) A社とB社の契約申込書とパンフレット
- (ウ) ワークシート「失敗しない契約」
- (エ) カード作成（黒板掲示用）

オ 授業の展開（2時間）

区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入  20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習として、ものを購入する時の基本行動パターンを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に売買契約の流れをカードを用いて示す。</li> </ul>	<p>掲示用カード</p>
	<div style="text-align: center;"> <pre> graph LR     A[今、必要] --&gt; B[店]     B --&gt; C[選択]     C --&gt; D[支払]     D --&gt; E[商品受取]     F[決定] -.- C                     </pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ポケットベルが欲しい」と前提し、それを手に入れるまでの行動について考える。</li> <li>・ポケットベルを手にするためには申込み手続きが必要であることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本行動パターンの上にポケットベルを手に入れるまでの行動を重ねてカードで示す。</li> <li>・ポケットベルを既に所有している生徒に、商品等を選択した理由を答えさせる。アンケートの結果も利用する。</li> </ul>	<p>アンケート集計結果</p>

分	 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の学習目標は「契約手続きの内容の理解」であることを知る。</li> </ul>	ワークシート	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「契約」とは何か考える。「売買契約」と「ポケットベルの契約」を比較し何が違うか考える。</li> </ul>  	<p>40</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常生活の中で契約により手に入れているサービスの例を知る。 (例) 水道、ガス、電気、電話等</li> <li>• ポケットベルの契約申込書を見て、構成・内容を知る。</li> <li>• ワークシートに記入する。</li> <li>• 契約申込書より分かったことを代表生徒が板書する。</li> </ul> <p>(休憩)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 契約がきわめて身近なものであることに気付かせる。</li> <li>• クラスの半分の生徒にはA社の資料、残りの半分にはB社の資料を配る。</li> </ul>	<p>掲示用カード</p> <p>A社、B社契約申込書 ワークシート</p>
展	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各自のワークシートを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 契約時に必要なもの</li> <li>○ 契約時に必要な費用</li> <li>○ 使用料金</li> <li>○ アフターサービス</li> <li>○ 支払いが延滞した場合 等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2社間で契約申込書の内容の違いがあることを確認する。</li> <li>• 契約時に必要なものより、未成年契約について触れる。</li> <li>• 支払方法により、信用に基づいて行われるサービスであることを確認する。</li> </ul>	<p>ワークシート A社、B社契約申込書</p>

開 30 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用料金が延滞した場合について学習する。</li> <li>・支払いが延滞した場合については「無線呼出サービス約款」に書かれていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支払いの延滞者が存在したことを知らせる。</li> <li>・延滞すると、無線サービスは停止し、利息を支払わねばならないことを理解させる。</li> <li>・「約款」の読み方について説明する。</li> </ul>	アンケート集計結果
ま と め 20 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約をする時は、契約約款及び契約申込書の内容をよく読み、理解する必要があることを知る。</li> <li>・B社の契約約款に記載してあるクーリングオフの内容を確認し、契約との関係を考える。</li> <li>・次時の内容について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに契約時の注意点をまとめさせる。</li> <li>・クーリングオフについて次時学習することを知らせる。</li> </ul>	ワークシート  B社契約申込書

#### カ 評価の観点

- ・ポケットベルの契約の流れについて理解できたか。
- ・契約申込時の具体的な事項について理解できたか。
- ・契約の概念について理解できたか。

#### キ 考察

##### (ア) 都立X高等学校

- ・家庭経済領域は本校では1年生で学習するが、学習に入る前に、授業への動機付けを図るとともに、生徒の実態を知るために「金銭に関する意識調査」を実施した。その結果、クーリングオフ等について全く知らない生徒が多いことが分かった。
- ・この調査の中で、今、欲しい品物について聞いたところ、ポケットベルと答えた生徒が多かったので、今回教材として取り上げてみたが、生徒にとって身近なものだけに関心が高く、授業中に積極的に発言する等、生徒の取組状況は非常に良かった。
- ・本校では、当初1時間で授業計画を立てたが、生徒から活発に意見が出たことにより時間が不足したため、2時間の授業展開に改めた。その結果、ゆとりが生まれ、生徒の発言を生かしながら授業を進めることができた。
- ・「契約」に対する生徒の理解を深めるためには、黒板の活用の仕方、ワークシートの内容について改善する必要があると感じた。



##### (イ) 都立Y高等学校

- ・X高校の実践結果を踏まえ、授業計画を

2時間として立てた。ワークシートを検討・作成し、1年生を対象に実施した。その結果、A社・B社の契約申込書の比較検討に十分時間をとることができ、授業を円滑に進めることができた。

- 本校では、1年生のポケットベル所持率が14%と低かったため、所持している生徒に対しての質問が同一生徒に片寄りがちとなった。しかし、今後ポケットベルを所持したいと考えている生徒が60%いたため、生徒の授業に対する関心は高く、積極的に参加していた。

(ウ) 都立Z高等学校

- 本校では、ポケットベルの所持率が他校と比べて高いため、教師の発問に対する生徒の反応もよく、意欲をもって授業に取り組んでいた。
- 本校では、X、Y高校の実践を踏まえ、前時の指導及び授業の導入の仕方を変えてみた。まず、契約に関する基本的な理解を深めるために、前時にVTR「クレジットの仕組みと契約の仕方」を見せ、クレジットによる物品購入、契約手続きについてきちんと理解させ、それからポケットベルの契約に入った。その結果、売買契約からポケットベルの契約に入る方法よりも生徒にとって分かりやすいので、契約に対する理解をより深めることができた。

(エ) 全体として

- マグネットを利用して掲示用カードを作成し、板書をする時に活用したが、授業を円滑に分かりやすく進めるうえで有効であった。
- 契約は生徒にとって難しい学習内容であるが、ポケットベルという生徒に身近なものを教材として取り上げたため、分かりやすかったようだ。

《失敗しない契約のしかた》  
～ポケットベルの契約を例として～

(1) 契約内容の理解 → それぞれの申込書をよく読んで相違点を見つけよう

(2) 契約手続きの方法 → これだけは知っておこうらのチェックポイント!

まとめ

- 商品についての様々な情報は、カタログで調べたり販売店(員)に尋ねて確認する
- 契約申込書は約款に目を通し、内容を充分理解し納得した上でサインする

《ポケットベル申込時の行動を考えてみよう!》

1. 《契約申込書の内容を知ろう!》

2社の『契約申込書』を比較して各項目について説明されているか比較する

	A社	B社
契約申込に必要なもの	○	○
契約時に必要な費用	○	○
使用料金	×	○
支払の方法	○	○
支払の延滞	○	○
禁止事項	○	○
アフターサービス	×	○
クーリングオフ	×	○

2. 《ポケットベル契約時において確認すべきことをまとめよう!》

① 契約申込に必要なもの	身分証明書(免許証・住民票) *未成年者は親の承諾が必要
② 使用料金	契約事務手数料 印鑑 支払いの方法 支払いの延滞 サービスの停止 延滞利息の支払い
③ 禁止事項	他人への譲渡
④ アフターサービス	
⑤ クーリングオフ	

- 11 -

## ク 生徒の感想

- ・ポケベルの約款は、読むのが面倒で気にもしなかったけれど、とても重要なこととか、知っておかなくてはいけないことであることを知った。支払いが遅れた時に利息分を多く払っていたことは知らなかったし、気付かなかった。ふだん契約書のことを詳しく知る機会がないので勉強できてよかった。
- ・僕は1年前ポケベルを持っていた。3か月払わないでいたら使用できなくなったため、お金は払わないでそのままにしていたところ、通知が届き約2万円という支払額を見てビックリしました。その時、契約書をちゃんと読んでおけばよかったと思った。
- ・はじめは、契約申込書の意味と言うか重要性が分からなかったけれど、ビデオとか契約書を見ることができて勉強になった。

### (5) 指導展開例（7時間）

時間	学習項目	学習活動	指導上の留意点
《学習のねらい》高卒用求人票を用いて、職業労働の内容、労働の条件、労働に関する法律、税金、社会保障等について学習することにより、労働や経済活動に対する関心を高め、職業労働と家庭生活のバランスを考えて将来の生活設計をしていく態度を育てる。			
1 時間 目	労働と生活時間 ・職業労働	○ <u>高卒用求人票の見方を知る。</u> ・職種・作業内容 ・賃金構成（基本給と手取り額） ・就業時間 ・休暇・福利厚生 等 ○労働契約と売買契約との違いについて理解する。	・高卒用求人票のコピー（2～3社）を用意する。 ・ワークシートに記入し整理させる。 ・就業規則の作成に当たっては、労働者の意見を反映させねばならないことに触れる。
2 時間 目	・職業労働と法律	○ <u>求人票の各項目と関連する法律について理解する。</u> ・労働基準法 ・最低賃金法 ・国民年金法 ・男女雇用機会均等法 ○母性保護に関連する法律について理解する。 ・育児休業法 ・介護法 等	・各法律に関する資料を用意する。 ・育児、介護について、自分ならばどのようにしたいか考えさせる。 ・男女の意見を聞く。
3 時間	・生活時間と家事労働	○ <u>求人票の労働時間欄より、変形労働時間（フレックスタイム）について理解する。</u>	

目		<ul style="list-style-type: none"> <li>○労働時間の変化により、生活時間が変化していることを知る。</li> <li>○労働時間の実態を労働基準法と比較し、問題点を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK「国民生活時間調査」を資料として用意する。</li> </ul>
4 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭経済</li> <li>・私たちの暮らしと経済活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○求人票の賃金欄より、賃金の構成と手取り額について理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <math display="block">\text{基本給} - \text{控除額} (\text{税金} + \text{社会保険}) = \text{手取り額}</math> <math display="block">(\quad) \text{円} - ((\quad) \text{円} + (\quad) \text{円}) = (\quad) \text{円}</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○税金の種類とその使い道について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを用いて実際に計算させる。</li> <li>・東京都主税局「都税の行方」を準備する。</li> </ul>
5 時間 目		<ul style="list-style-type: none"> <li>○求人票の福利厚生欄より、社会保険について学習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保険 健康保険、共済組合 国民健康保険等</li> <li>・年金保険 厚生年金、共済組合 国民年金</li> <li>・その他 雇用保険等</li> </ul> </li> <li>○家計と国民経済、世界経済の関係を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の現状を欧米と比較して考えさせる。</li> <li>・VTR「ハロータックス」(24分)を視聴させる。</li> </ul>
6 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭経済のしくみと経済設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のおこづかいから支出項目について考える。</li> <li>○高校卒業後、一人暮らしをするにはどのくらい経費がかかるか計算する。</li> <li>○計算結果をもとに、自由に使えるお金がどのくらいあるか知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポケベルとこづかいに関する調査結果を用いる。</li> <li>・グループ学習とし、結果を発表させる。</li> </ul>
7 時間 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長期計画に基づいた経済設計の重要性を理解する。</li> <li>○ライフサイクルが変化していることを知る。</li> <li>○高校卒業後の各自のライフコースについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクルが多様化していることに留意する。</li> </ul>

### 3 保 育

#### (1) 研究のねらい

近年、家庭を取り巻く社会の様々な変化に伴い、保育の在り方も変化してきた。有職女性の増加に伴い、長時間保育や時間外保育の必要性が増すとともに、家庭における夫婦相互の協力が必要不可欠な状況になってきた。また、大都市を中心に、核家族化や少子化が進んだことにより、生徒たちが乳幼児に接する機会は非常に少なくなっている。若い母親が育児ノイローゼになったり、育児に関するマンガや雑誌が次々に発刊されているのも、こうした社会の状況を反映していると考えられる。

男女共学で保育を学習するに当たり、従来の母性教育中心の保育を踏襲するのではなく、自分の将来を考えたときに、どのような家族・家庭を創造したいのか、男女生徒が考える機会にさせたいと考えた。また、青年期の健康や生き方が、将来に大きな影響を与えることを自覚して欲しいと考えた。さらに、新しい家庭像、あるいは父親像・母親像を描き、社会との関わりの中で、男女が協力して自分が理想とする家庭を築く努力をしなければならぬことを理解させたいと考えた。

保育領域は、食物や被服領域に比べて実習が少なく、生徒の現在の生活と直接的な関わりが少ないため、生徒の興味や関心を引き出すことが難しい領域である。特に、「生命の誕生と母性保護」「乳幼児の発達と保育」に関しては、生徒たちに自分自身の問題として考えさせるには教師の工夫や新しい教材を開発することが必要である。そこで、保育領域について次のように指導計画を立て、生徒が自ら考え活動できる場面を多く設定した授業展開について研究することにした。

#### (2) 指導計画（16時間～20時間）

時数	指 導 項 目	学 習 活 動	備 考
6 5 8	人間の生き方 と性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生の性に対する意識調査 →性に関するアンケート調査を行い、保育学習の導入で使う。</li> <li>・ 新聞や雑誌、テレビなどで、話題となっている「性の商品化」について考えさせる。 →事例を基にグループごとに話し合い発表させる。</li> <li>・ ビデオなどをもとに、人工妊娠中絶の実態や母体への影響・危険性について考えさせる。</li> </ul>	V T R 「ナンパ」 「TVのワイ ドショーより 録画したもの」 <u>資 料</u> 「ティーンの あなたへ」 V T R 「中絶」 「性交・避妊」



			<ul style="list-style-type: none"> <li>性病、エイズ、喫煙・飲食の妊婦への影響、ダイエット等の問題を取り上げ、将来親となる高校生の身体の健康の重要性について学習させる。</li> </ul>	<p>資料</p> <p>「さらば悲しみの性」</p>
4	生命の誕生と母性保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊娠と健康管理</li> <li>分娩と出産</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>VTRや模型を通して、視覚的に胎児の成長の様子を理解させる。</li> <li>妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリー）を用いて妊婦の身体の変化について体験的に理解させる。</li> <li>妊娠中から父親の育児参加が必要であることを理解させる。</li> </ul>	<p>VTR</p> <p>「生命誕生」</p> <p>「野沢直子のニューヨーク出産事情」(録画)</p> <p>「お父さんへ赤ちゃんからのメッセージ」</p>
4 5 6	乳幼児の発達と保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身の発達</li> <li>生活習慣の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の食事、衣服、おもちゃ、生活用品などについて調べさせる。 →市販のベビーフード・調製粉乳の試食及び乳幼児食の作成。 →紙おむつの分解。紙おむつの吸水量調べ。 →児童文化財の作成。</li> <li>保育園見学を通して、乳幼児の発達段階に応じた生活習慣（言葉・遊び・食事など）を観察し、レポートにまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録用紙</li> <li>保育園見学</li> <li>ワークシート</li> </ul>
2	これからの保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同の保育…今後の話題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族・地域社会と子どもとの関わりを考えさせる。 →自分が親になることを想定し、「親の条件」や「子どもをもつ意義」について話し合わせる。</li> <li>→産前・産後休暇制度や、男女どちらでも利用できる育児時短や育児休業の普及の状態などについて調べさせる。</li> </ul>	

### (3) 指導事例 2 妊娠模擬体験装置を利用して妊娠の状態を理解する

#### ア 題材名 妊娠・その未体験ゾーンを探ってみよう

#### イ 題材設定の理由

すべての人が共に生きることのできる社会を実現するためには、相手のおかれた立場を共感的に理解することが必要である。特に、社会的弱者である高齢者や身体障害者、妊婦、子どもに対する理解を深め、相手を尊重し思いやる心を育てることは必要である。

高齢者福祉が家庭科の学習内容になったことにより、高齢者の身体の状態等について、様々な器具を装着して体験的に学習することが行われるようになったが、体験的な教材の少ない保育領域についてはそのような装置はあまり知られていない。

先日、アメリカで妊娠模擬体験装置「ザ・エンパシー・ベリー」が教育目的に開発されていることをテレビで知り、保育教材として利用できないかと考え調べてみた。その結果、1体を購入することができたので、それを授業に活用することを試みた。

核家族化、少子化等の進展により、高校生が乳幼児に接する機会は少なくなっている。また、妊娠・出産は女性だけのものという根強い先入観から、ともすると男性には関係ないものと受け取られがちである。そこで、模擬的に妊娠状態が体験できる装置（ザ・エンパシー・ベリー）を用いて妊娠がどのような変化を身体にもたらすのか体験的に知ることにより、妊婦に対する理解を深め、いたわる気持ち、協力する気持ちを芽生えさせることを目的としてこの題材を設定した。

#### ウ 妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリー）のしくみと部品装着の効果

##### (ア) 各部品の名称、重量

妊娠時の乳房

肺圧迫器（リブ・ベルト）

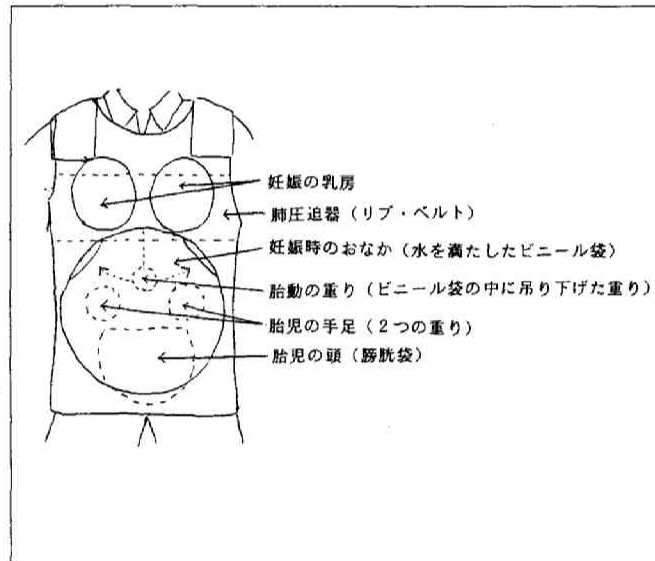
妊娠時のおなか（水を満たしたビニール袋）= 5 kg

胎動（ビニール袋の中に吊り下げた重り）= 1 kg

胎児の手足（2つの重り）= 6 kg

胎児の頭（膀胱袋）= 3 kg

合計重量 = 15 kg



##### (イ) 部品装着の効果

妊娠時の乳房……大きくなる。

肺圧迫器（リブベルト）……深呼吸ができない。呼吸が苦しく、浅い呼吸になる。

妊娠時のおなか……おなかが迫り出し動作が緩慢になる。重量により疲れやすくなる。  
自分の足元が見えない。

胎動（吊り下げた重り）……肋骨及び腹部臓器に痛みを感じる。胎動の際の衝撃や奇妙な感覚がある。

胎児の手足……肋骨、腹部臓器に痛みを感じる。胎動の際の衝撃や奇妙な感覚がある。

胎児の頭……膀胱が圧迫されるため排尿回数が増える。

エ 学習目標

- (ア) 妊娠が身体にどのような変化をもたらすか知る。
- (イ) 妊娠模擬体験より妊婦の動作、外観の変化を観察する。
- (ウ) 周囲の人々は妊婦に対してどのように接すればよいか考える。

オ 事前準備

- (ア) ビデオ「野沢直子のニューヨーク出産事情」
- (イ) 妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリー）
- (ウ) ワークシート

カ 授業の展開（1時間）

	学 習 活 動	教師の支援と指導上の留意点	備 考
導 入 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎妊娠はどのように経過していくのか考える。</li> <li>◎ワークシートの質問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを用いて妊娠について生徒がどの程度知っているのか把握する。</li> </ul>	ワークシート
展 開 35 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ニューヨークの出産事情に関するビデオを見る。</li> <li>◎妊娠模擬体験装置装着のデモンストレーションの様子を観察する。</li> <li>◎妊娠模擬体験装置を装着した人が様々の動作を行う様子や表情の変化を観察し、記録する。</li> <li>◎男女各1名が、交代で装着して動作を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューヨークの出産事情を知らせる。</li> <li>・ビデオに登場する夫が体験している妊娠模擬体験装置について説明する。</li> <li>・各部品の説明をしながら装着して見せる。</li> <li>・装着したまま次の動作を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>周囲を歩く。 床に落ちたボールペンを拾う。 椅子に座る。 感想を述べる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・装着がスムーズに行われるよう、適切にアドバイスする。</li> </ul>	<p>ビデオ 「野沢直子のニューヨーク出産事情」</p> <p>妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリー）</p> <p>ワークシート</p>



まとめ	◎妊娠に伴う様々の変化を確認し、感想等をワークシートに記入する。	ワークシート
-----	----------------------------------	--------

キ 評価の観点

- 妊娠による身体の変化について理解できたか。
- 妊娠に伴う種々の変化を実感できたか。
- 妊婦への配慮が考えられたか。

ク ワークシート

*妊娠・出産についてどれくらい知っている？ 次の問いに答えてみよう。	
Q 1 妊娠から出産までの期間は、どれくらいか？	A 1 ( )
Q 2 胎児は女性の体のどこで成長するか？	A 2 ( )
Q 3 妊娠している女性を何というか？	A 3 ( )
Q 4 出産間際、女性の体重はどれくらい増加しているか？	A 4 ( )
Q 5 新生児の身長・体重はどれくらいか？	A 5 身長 = ( ) 体重 = ( )
Q 6 妊娠していることで、生活上どのような不便さが生じるか？考えられるだけあげよ。	A 6 ( )
妊娠から連想することを1つあげよ。( )	

* 妊娠模擬体験観察記録		妊娠模擬体験装置の名称 ( )
1	しくみと各部分の役割を記録しよう。(重さや何を模擬したものか記入。)	
	• リブベルト ( )	
	• 3リットルの水の入ったポリ容器 ( )	
	• 2つの鉄の玉 ( )	
	• 膀胱袋 ( )	
2	種々の動作の観察結果を記録しよう。	
	• 自分の足元 ( )	
	• 歩く、階段の昇降 ( )	
	• かがんで物を拾う ( )	
	• 椅子に腰掛ける ( )	
	• 全体の外観、感想	

#### ケ 授業の考察

- (ア) 1時間での授業展開のため、妊娠についてのアンケートは、前時に実施しておいて本時の導入に使ったほうがよかった。
- (イ) ビデオ視聴については、教師が解説を加え、視聴記録をとらせる方がその後の生徒の活動を積極的にするのによい。
- (ウ) 多くの生徒が実際に模擬体験するためにも、装置はたくさんある方がよい。
- (エ) 今回は教師2名でデモンストレーションを行った。その後、代表の生徒が装着し、動作を行ったが、装着した生徒の表情から、実際に体験していない生徒にも装着の苦しさは伝わっていたようだ。

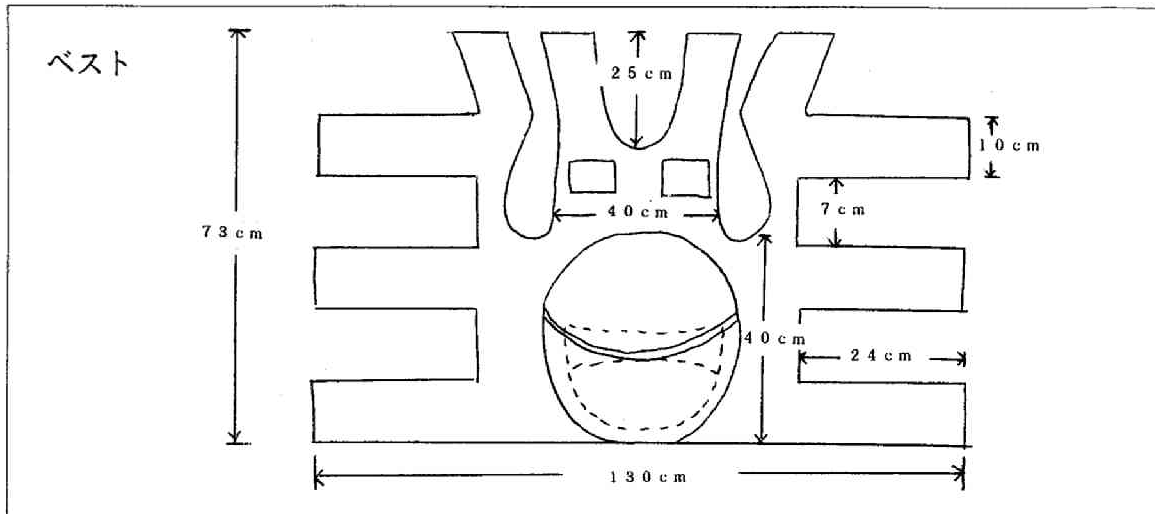
#### コ 生徒の感想

- (ア) 男性にはわからないものとして、まず妊娠体験があげられると思う。その点でザ・エンパシー・ベリーは女性のつらさを知ることができて、いろいろと助け合えたりできてよいと思った。
- (イ) 実際にザ・エンパシー・ベリーを付けた人の動作を見て驚いた。呼吸が通常の半分しかできず、下に落ちたボールペンも拾えないということだ。だから妊娠した人は大変なんだということがよくわかった。そして、妊婦はなぜがに股になるのかということもよくわかった。
- (ウ) ザ・エンパシー・ベリーは他人の身になることのできる道具である。妊娠時の母親の心情を考えて、できるだけ負担をかけないように接し、心を落ち着かせてあげるためには同じ感覚を味わった方がよいし、母親も一緒に育てているという共同感が得られて不安が少しやわらぐだろうと思う。

サ 妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリー）の製作

妊娠模擬体験装置は国内の理科教材会社より入手は可能であるが、価格が非常に高価で（約30万円）あるため、簡単に手に入る材料で作ることができないものかと考え、取り組んでみた。

(ア) 展開図



(イ) 材 料

帆布 3 m、バイヤステープ10m、マジックテープ（5 cm幅）1.5m、  
パンヤ、伊達締め、ポリタンク、塩 2 km、砲丸 4 kg 2 個

(ウ) 費 用 約5,000円

(エ) 作り方

○ベスト

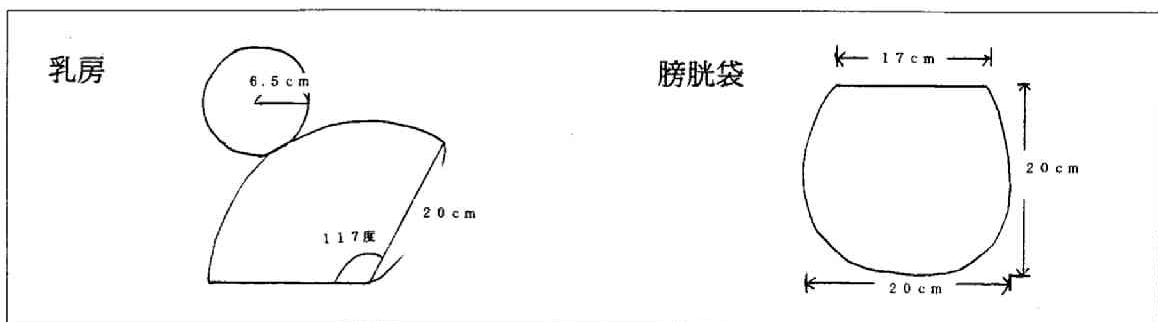
布を型紙どおりに裁断し、二重にして周囲をバイヤステープでくるみ縫う。止める部分にマジックテープを縫い付ける。腹部に、水のタンクを入れるふた付きのポケットを縫い付ける。乳房、膀胱袋が付く位置にマジックテープを縫い付ける。

○乳 房

図のように展開図を求め裁断し、縫い合わせる。先端部分を丸く整え、中にパンヤを詰める。裏側にマジックテープを縫い付ける。

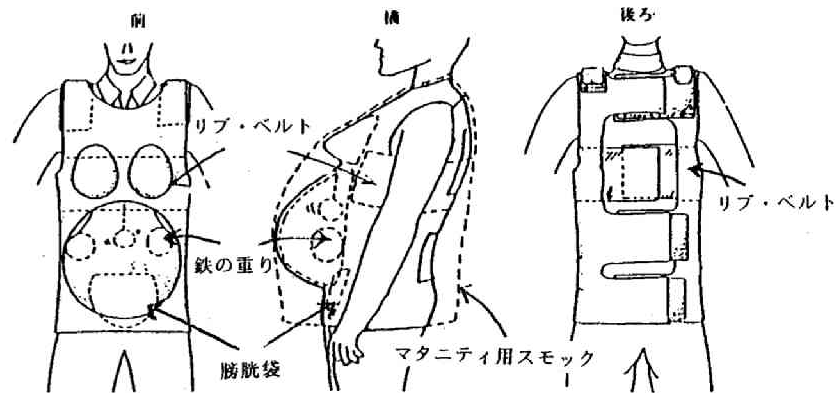
○膀胱袋

図のように裁断し、布を二重にした中に塩 2 kgを詰める。裏側にマジックテープを縫い付ける。

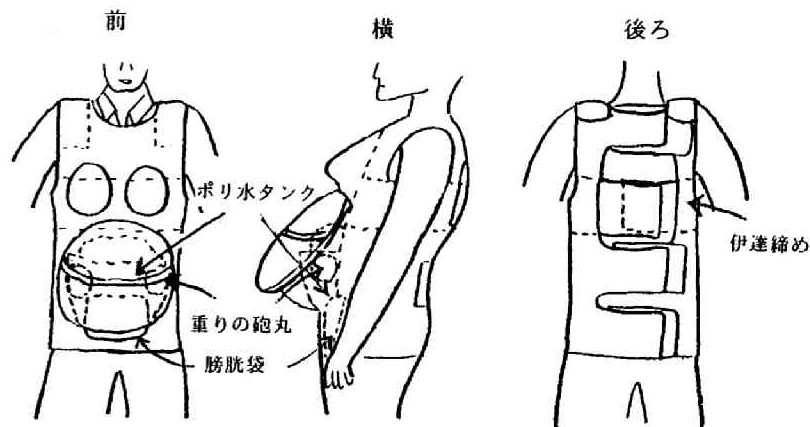


(オ) 装着図（前、横、後ろ）

実物の妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリール）



手作りの妊娠模擬体験装置



(カ) 製作後の考察

- 布地が厚くカーブが多いため、製作はかなり大変だが、簡単に入手できる材料で手作りすることができた。購入するよりも安価にできる。
- 腹部に入れる水のポリ容器を今回は防災用の物で代用したが、取っ手の部分が突出しているため、より自然に近い形の物がないか検討中である。また、胎動が感じられるように重りを吊り下げる工夫も課題である。
- 腹部のポケットを外側に付けたことで、ポリ容器の出し入れが容易でよかったが、ふたの部分が突出した取っ手のためもち上がってしまうので、ふたを押さえる工夫が必要である。
- 全体の総重量は約13kgで実物より2kgほど少ないが、肩に負担がかからず、腰への負担がリアルで、身体によくフィットするものができあがった。本物より、実体験に近い感覚を体験できる。
- 1クラスに1個の教材ではなく、できれば4～5人に1個の教材での授業が理想的である。作り方をもう少し簡便化し、生徒にも製作できる物に改良することが今後の課題である。

(4) 指導事例3 保育園見学を通して乳幼児の生活を理解する

ア 題材名 保育園見学

イ 題材選定の理由

最近の高校生は兄弟姉妹の数も少なく身近に乳幼児がいないため、子どもに対する関心が低く、子どもに対する考え方も未熟な者が多い。そこで、保育園見学を通して、0歳児から5歳児までの乳幼児を観察することで、言葉の習得や基本的な生活習慣が身に付いていく様子を段階的に把握し、子供の特性を理解してほしいと考えこの題材を設定した。また、保母の園児への関わり方等を通して一人の人間を育成するという意味での保育の重要性と責任の重さを感じ取らせることを併せて目的とした。


ウ 学習目標

- (ア) 乳幼児の身体的、行動的特徴を観察し、理解する。
- (イ) 0歳児から5歳児までの発達に伴う変化を見る。

エ 事前準備

- (ア) 事前に見学の際の注意事項と見学のポイントを説明しておく。
- (イ) 記録用紙

オ 本時の展開

区分	学 習 活 動	教師の支援と指導上の留意点	備 考
導 入 20 分	玄関集合・点呼 本時の学習目標を知る。 移動（徒歩15分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学の目標と注意事項を確認させる。</li> <li>・保育園への道筋を知らせる。</li> <li>・交通安全に留意して引率する。</li> </ul>	
展 開 60 分	園長先生の話聞く。  1歳児から5歳児までの各教室を見学する。  いずれかの教室に入り、保母の指示に従って園児と遊んだり、食事の介助等をしながら乳幼児を観察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の概要を理解させる。</li> <li>・0歳児から5歳児までの各教室を確認させる。</li> <li>・1つの教室に人数が集中しないよう生徒を振り分ける。</li> </ul>	園内の地図  



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の目線で静かに話しかけるように指導する。</li> </ul>	
	<p>観察項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び（1・2時間目に見学のクラス）</li> <li>・食事（3・4時間目に見学のクラス）</li> <li>・言葉 ・他人との交流 ・その他の生活習慣</li> </ul>		
ま と め 30 分	<p>保育園の玄関集合 点呼 移動（徒歩）</p> <p>教室に戻り、ワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学に協力してくれた保育園の方々に対する感謝の気持ちをもたせる。</li> <li>・レポート記入の仕方を確認し、次週までに提出するよう指示する。</li> </ul>	<p>ワークシート 「保育園見学のまとめ」</p>

#### カ 評価の観点

- (ア) 保育園見学を通して、乳幼児と積極的に関わりをもつことができたか。
- (イ) 乳幼児の身体的・行動的特徴が理解できたか。
- (ウ) 0歳児から5歳児までの発達に伴う変化が理解できたか。

#### キ 考察

本校では、10数年前から保育授業の一環として保育園見学を行っている。昨年までこの領域は女子のみの履修であったため、男子も含めクラスごと全7回にもわたる見学は今年が初めてであった。見学を引き受ける保育園側の都合を考えると、今年は例年通りにはいかないのではないかと心配したが、保育園側の多大な理解と協力を得て実施できた。

例年、保育園見学の実施を事前に予告をすると、生徒の反応は様々で、大変楽しみにしている生徒もいる反面、子どもが嫌いだから気が進まないという生徒もいる。しかし、後者の生徒も実際に見学を終えてみると「楽しかった。子ども嫌いが少しは直ったかもしれない」という感想をもつ生徒が多い。今年は男子も一緒ということで、乱暴な言動で園児たちを怖がらせてしまうのではないかと心配していたが、思った以上に男子の反応がよかった。それは、受け入れる側の保母が、廊下に立って見ているだけの生徒たちに親切に声をかけ、教室に引き入れて園児たちの輪の中に入れてくれたことによるもので、非常に助かった。

#### ク 生徒の感想（レポートより抜粋）

- ・鶏、アヒル、インコ、ザリガニ、金魚など沢山の生き物がおり、園児が動物と接することにより、命の大切さや思いやりなどを育てるのに役立っているように思われる。今日、保育園を見学した結果、大変疲れたというのが実感で、保母さんは大変だろうなと思った。
- ・子どもは日本の宝なので大切にしなければならない。最初、保育園見学なんてかったるいと思っていたけれど、一緒に遊ぼうと言ってくれたり、笑顔で接してくれたらしている子どもたちを見ていたら、そんなことを考えていた自分が小さく見えた。今日

の保育園見学では学ぶことが多すぎた。貴重な体験をした。

- 1～2歳の子どもたちと接していたのだけど、何にでも興味をもち、人に自分の持っているものを与えようとする。なついてしまうとなかなか離れず、その力はけっこう強かった。

#### IV 研究のまとめ

本年度の教育研究員は、「生徒の学習意欲を高め、進んで実践する態度を育成する家庭科の指導」を主題に、分かりやすい授業、学習意欲を喚起させる授業とはどのようなものかについて研究し、授業実践した。「家庭経済と消費」「保育」という2領域を研究対象とし、題材選定や授業形態、指導の在り方について資料収集や教材開発も含めて研究を進めた。

「家庭経済と消費」においては、契約に関するトラブルが若者の間で多いことに着目し、最近の高校生の「三種の神器」の1つであるポケットベルを選び、実際の申込契約書を使用して契約に関する授業を展開してみた。この授業は3校で生徒の実態に応じて改善しながら実践したが、各校とも生徒の授業に対する関心が高く、生徒が積極的に発言し、活発な授業となった。生徒の身近なものを題材とし、生徒の体験談を取り入れながら授業を進めることにより、分かりやすい授業となり、契約の概念に対する理解を深めることができ、生徒と生徒、生徒と教師のコミュニケーションもよくなった。また、視聴覚教材を活用したが、これも消費者信用を具体的に理解するのに有効であった。

次に、「労働」「家庭経済」の学習では、求人票を教材として生活時間や賃金、社会保障等に発展させる指導展開を考えてみたが、教科の学習を通して進路指導を行ううえでも効果的であると思われる。

「保育」においては、生徒の現在の生活と直接的な関わりが少ない領域ゆえに、どのようにして自分自身の問題としてとらえさせるかが研究のテーマであった。日本に1体しかないというアメリカ製の「妊娠模擬体験装置（ザ・エンパシー・ベリー）」を調査・研究し、それを基に製作した「妊娠模擬体験装置」は、改良の余地はあるが、身近な材料で製作可能なものである。実際に経験することのできない妊娠状態を模擬体験させることにより、妊婦に対する理解を深め、いたわる気持ちや協力する気持ちを芽生えさせるには大変効果的であった。今後はクラスに1体の教材ではなく、より多くの生徒が体験できるように複数用意することが必要である。

また、全クラスを対象に保育園見学を実施したが、男女の差はなく生徒の反応はよかった。保育園見学を授業時間の中で全生徒を対象に実施することは、受入れ側の協力が必要であり、どこでもできることではないが、このような機会を設定するよう努力することは必要である。

指導計画においては、生徒が主体的に活動できる場面を多く設定して考えてみたが、今後は実際に授業を行うなかで、それぞれの学校の実態に合う形に改善していくべきであろう。

家庭を取り巻く社会の変化に伴って変わっていく日常生活や家族の在り方に対し、常に敏感にその変化をとらえ、日頃より情報収集に努め、授業に還元していこうとする姿勢は教師にとって大切なものである。「分かる授業」「おもしろい授業」を創造することは決して容易なことではないが、これからも生徒の疑問や意見を授業の中で積極的に取り上げるなどして、生徒を主体とした授業の実践を心掛けていきたい。